



## ◆当面する重点作業

◎収穫の終了した園では次の作業を進める。

1. 晩腐病・べと病・さび病の発生が見られる園では、二番果や取り残した病果、巻きヅルの除去を行う。  
また、落葉の処理を必ず行い、園内の菌密度を下げる。
2. 防鳥網(防雀網)をかけている園では必ず積雪前までに取りはずす。
3. 棚が傾いていたり、ゆるんでいる園では補強・補修を行う。
4. 種あり巨峰の元肥を施用し、土壌の深耕(タコツボ条溝法)や有機質の施用を徹底する。
5. 密植・強剪定・徒長・品質不良園の間伐を秋季(収穫直後)に実施する。

◎12月に入ったら次の作業を進める。

1. 凍害による根頭がんしゅ病感染防止対策(防寒)を徹底する。
2. 混んでいる樹の間伐を行っておき、剪定準備に入る。
3. 短梢仕立ての場合は、積雪の前までにあら剪定を行い、棚の倒壊を防ぐ。  
短梢剪定の本せん定(仕上げせん定)は厳寒期を過ぎてから実施して下さい。

※種無し品種の講習会は、1月下旬頃からを予定しています

## ◆施肥(ぶどう共通)について

1. 樹勢に応じて施肥量を調整する。新梢の太さなどを見て判断する。
2. 種あり巨峰で樹勢が弱い場合は、なたね粕を2袋追加する。
3. 種なし品種で樹勢が弱い場合は、なたね粕を1袋、グリーン長野果樹専用有機入り72を1袋追加する。  
樹勢が強い(棚が埋まり、新梢が太い)場合は、開花以降に肥効が切れる程度に施肥量を減らす。
4. ホウ素欠乏対策として3年に1回「ほう砂」を10a当たり3kg施用する。

## ◆種あり巨峰の基肥施肥について

1. 施用基準(10a当り)

施用時期	資材名	施用量	成分量(kg)
10月中旬 落葉前	グリーン長野果樹専用有機入り72	2袋	窒素3.2・リン酸0.8・カリ0.4 苦土0.6
	果樹の力	2袋	苦土13.6

2. 注意事項

- 1) 弱樹勢園(樹)ではグリーン長野果樹専用有機入り72を1袋増やして3袋とする。
- 2) ウイルスフリー樹などで樹勢が強い場合は、樹勢が落ちつくまでチッソ肥料(グリーン長野果樹専用有機入り72など)を樹勢に応じて減肥する。
- 3) 硼砂を3年に一度、10a当り3~4kg施用する。  
ただし、ミネパワーC施用の場合は、硼砂に代えて春先発芽前に1~2袋施用する。

ぶどうは、ボルドー液を散布するので、ミネパワーはS（基本）で無くC（銅抜き）を使用する。

4) グリーン長野堆肥などを使用する場合は成分量を計算し、グリーン長野果樹専用有機入り72を減らす。

※チッソ成分はグリーン長野堆肥5袋とグリーン長野果樹専用有機入り72は半袋とほぼ同じ。

5) 乾燥が続く場合はかん水(10～20mm)や降雨後の施用が好ましい。

### ◆落葉の処理について

落葉を放置しておく、べと病等の病原菌の越冬源になるので処理を徹底する。

なお、落葉前に深さ30～40cmの溝を樹間に平行に2～3本掘り落葉を集めると効率良く処理できる

また、埋める際はマルチのワラや有機物等土壌改良材を投入し土作りを兼ねることが大切である。

特に近年のぶどう樹の樹勢衰弱要因の一つに土壌の硬化が考えられるので改善する。